東京大学トライリンガルプログラム・中国語

2022 年度南京サマースクール報告書

全体日程

8 月 8 日	中国語授業４コマ	始業式、南京大学・南京市紹介
8 月 9 日	中国語授業４コマ	南京大学学生との交流
8 月 10 日	中国語授業４コマ	
8 月 11 日	中国語授業４コマ	
8 月 12 日	中国語授業４コマ	南京大学学生との交流
8 月 15 日	中国語授業４コマ	田家炳高校の学生との交流
8 月 16 日	中国語授業４コマ	
8 月 17 日	中国語授業４コマ	
8 月 18 日	中国語授業４コマ	
8 月 19 日	中国語授業４コマ	南京大学学生との交流
8 月 22 日	中国語授業４コマ	田家炳高校の学生との交流
8 月 23 日	中国語授業４コマ	
8 月 24 日	中国語授業４コマ	
8 月 25 日	中国語授業４コマ	
8 月 26 日	中国語授業 2 コマ、修了式	南京大学学生との交流

目次

開会式挨拶・朱小易 4

開講式挨拶・伊藤徳也 6

I. 活動編

１．１南京大学学生との交流会 7

１．２高校生との交流会 9

１．３東大生の交流 12

漢詩朗読会 12

東京小旅行 14

みんなで「海底撈」 18

II. 感想編

２．１南京大学教員の感想 20

李宇晨:写给东京大学的同学们 20

汪天源 22

杭蕾：2022 年东京大学短期班授课感想 24

王大莹 29

２．２参加者の感想 31

『中国語能力と食文化』 31

『解放、そして新たな挑戦』 33

『自信とモチベーション』 36

『「外国語選択の手引き」を振り返る』 38

『中国語の夏』 42

『光阴似箭，受益匪浅』 44

『南京研修感想』 47

『充実した 3 週間』 50

『想像の南京』 52

『間違えを許さないプライドを捨てる』 54

『充実の 3 週間。それでも語学の道に飛躍なし。』 57

『南京サマースクール感想』 59

III. 記録編

南京暑期学校反省会 61

あとがき

オンライン 3 年目・伊藤徳也 75

執筆者一覧 77

開会式挨拶

南京大学海外教育学院・朱小易院長

敬愛なる伊藤先生、東京大学の先生方、生徒の皆さん、この場で皆さんに会えたことを非常に嬉しく思います。

新型コロナウイルスが発生して以来３年目であるのにまだこのようにオンライン形式でこのプログラム、研修を開催しなければいけないことを非常に残念に思います。しかし、面と向かってではなく、また現地にいるわけでもないのですが、先生方、生徒の皆さんに会えて、私個人としては非常に懐かしく思います。なぜかというと、南京サマースクールは我々南京大学と東京大学は長年の協力のもと、ちょうど１０年目に突入したためです。

この１０年間、私たちは、東京大学から南京大学海外教育学部に来て授業を受け学習するたくさんの生徒を次から次へと受け入れてきました。そして、この３年間、コロナの関係でオンライン形式でありながらも、非常に努力して真面目に学習してきました。我々教員たちもみなさんのその姿に非常に感激しております。

そこで、私はここでまず南京大学海外教育学院を代表して、みなさんに歓迎の意を表したいと思います。今期については、前の２期の研修形式と大体同じです。皆さんには集中的なオンライン授業を準備していますし、さらに南京大学と南京の高校生とのオンライン交流といった活動も準備しています。当然な

がらオンライン形式は間違いなく南京大学の現地に行くことには及ばないので、多かれ少なかれ残念ではあります。しかし、リモートという技術でこのプログラムを継続させることができたことに関しては、この時代に感謝しましょう。双方の学校の教員は多大な努力をしてきましたので、この場を借りて、東京大学と南京大学の先生方に、このプログラム継続のためにしてきた努力に感謝の念を表します。

さて、オンライン形式は対面形式には及びませんが、オンラインにはオンラインなりの特徴があり、別の角度から言えば、オンラインには長所があります。ですので、みなさんにはこのような形式に慣れて頑張って学習して、この３週間を通じてみなさん全員が一人ひとり異なる収穫があってほしいなと思います。

最後にはなりますが、生徒の皆さん、先生方が来てくださったことに改めて歓迎の意を表し、また今期の研修プログラムが順風満帆になることを先に祝福します。ありがとうございました。

（日本語訳 : 松本翔龍、杉本理空）

開講式挨拶

東京大学責任教員・伊藤徳也教授

手短に挨拶させていただきます。親愛なる朱小易院長、阮艶先生、各クラス担当の先生方、そしてみなさん、こんにちは。昨日の新型コロナウイルス感染者は日本全国で 20 万人、死者は 150 人以上にのぼりました。このように感染状況は未だ芳しくなく、我々の今回のプログラムも、やはりオンラインで行うこととなりました。それでも、本物の中国語に触れ、南京の先生方や学生たちと交流する機会を学生たちに与えることができて、とても嬉しく思います。このような機会を得ることができたのは、南京大学海外教育学院の先生方の貴重なご協力のおかげです。この場をお借りして、学院の先生方に心からの感謝を表します。

さて、東大生のみなさん、普段の大学の講義では、このように少人数グループで中国語を学べる機会というのは、本当に得難いものです。ですから、ぜひこの機会を活かして、自身の中国語力を高めていただきたいです。間違えることを恐れたり、恥ずかしがったりすることなく、大いに聞いて、大いに話してください。ご清聴ありがとうございました。

（日本語訳：川東凛子）

I. 活動編

１．１南京大学学生との交流会

今回の研修では、週に一度、合計 3 回、金曜日の午後にクラスごとで南京大学の学生さんと交流する機会がありました。

最初の 2 回は南京大学の学生さんたちが司会進行をしてくださいました。ミニゲーム・ディスカッションなどの企画はどれも面白かったのですが、特に印象的だったのはお互いの恋愛観や結婚観についての議論でした。「恋愛は楽しいが、1 人でいるのにも一定のメリットはある」、「結婚相手と恋愛対象は別で、結婚するなら性格の一致が 1 番大事」などなど、国を超えて意見が一致する部分もあったのが興味深く、普段日本人同士でも話すことはないような話題を赤裸々に語り合うことができたのは非常に貴重な機会でした。また、南京大学の学生さんたちはとても気さくで、私が中国語で意見を言おうとして詰まった時も辛抱強く聞いてくださいました。2 回目の最後に、「内田同学は自分の意見をしっかり持っていて、心の中の姉妹だと強く思いました。」と言ってくださった学生さんがいて、自分の意見が中国語できちんと伝えられたのだと実感できて、とても嬉しかったです。

最後の 1 回は私たち東京大学側で司会進行、および交流会内容の企画を行いました。最終週にクラスにいたメンバー4 人それぞれが企画を担当し、日本の都市紹介、駒場キャンパスのツアー、エセ中国語当てゲーム（日本人が日本語

の漢字だけを用いて作った文章の意味を当てるゲーム）、中国語版ワードウルフ（最初に与えられたお題に沿ってみんなで議論する中で、1 人だけ違うお題を与えられている人を探すというゲーム）を行いました。中国語での進行でつまづく部分もありましたがそこも含めて大変勉強になり、南京大学の学生さんたちも最終的には楽しんでくださったようで、安心しました。楽しい時間を過ごすことができたと思います。

最後に、この交流会を通して、語学力が向上しただけではなく、年の近い中国人の若者の価値観や文化を知ることができました。国際交流体験としても大変意義深く非常に貴重な機会だったと思います。来年以降対面で研修が行えたならば、語り合うだけでなく、ぜひ南京の色々な場所一緒に行けたらいいのではないでしょうか。

（執筆：内田まりな）

１．２高校生との交流会

南京大学プログラムの活動の一環として、8 月 15 日と 22 日に、南京市の田家炳高校の学生と交流する機会が 2 回ありました。1 回目は 3 年生と、2 回目は 2 年生と交流しました。基本的に前半の 1 時間は高校生側が発表をし、後半の 1 時間で私たち大学生側が発表をするという流れで交流会が行われました。

15 日の年生との交流では、まず初めに高校生側が制作したビデオをいくつか見ました。初めのビデオの内容は南京の街を高校生が案内するという内容でした。そのビデオを見て第一に頭に思い浮かんだ言葉は、「クオリティがめちゃくちゃ高いな～」という感想でした。BGM の使い方なども完璧に近く、高校生にもかかわらず動画の制作技術が想像以上に高かったことに感動しました。また、南京の様々な観光名所や有名なグルメも紹介してくれました。次のビデオでは、一人の男子高校生と一人の女子高生がそれぞれの自分の一日の生活を紹介していました。そのビデオを見ていて特に印象に残っている内容が 2 つあります。一つ目は、女子高生が通学で地下鉄駅を利用する際に、家から駅までの移動にタクシーを使っていたことです。「中国のタクシー運賃の相場は日本の相場よりずっと安いからこそそのようなことが可能なのかな～」「それともお金持ちなのかな～」と自分の中で勝手にいろいろ考えながらビデオを見ていました。二つ目は、男子高校生が昼食に食べていたものです。彼がコンビニで選んだ昼飯は、火も電気も使わずに火鍋を楽しめる即席火鍋セット「自煮火锅套餐」でした。日本のコンビニではそのようなものを見かけたことがなかった

ので非常に驚きました。しかし後に池袋西口のドンキ・ホーテの中国商品コーナーでその商品を見かけたので、実際に買ってたべてみました。（美味しかったです〔笑〕）

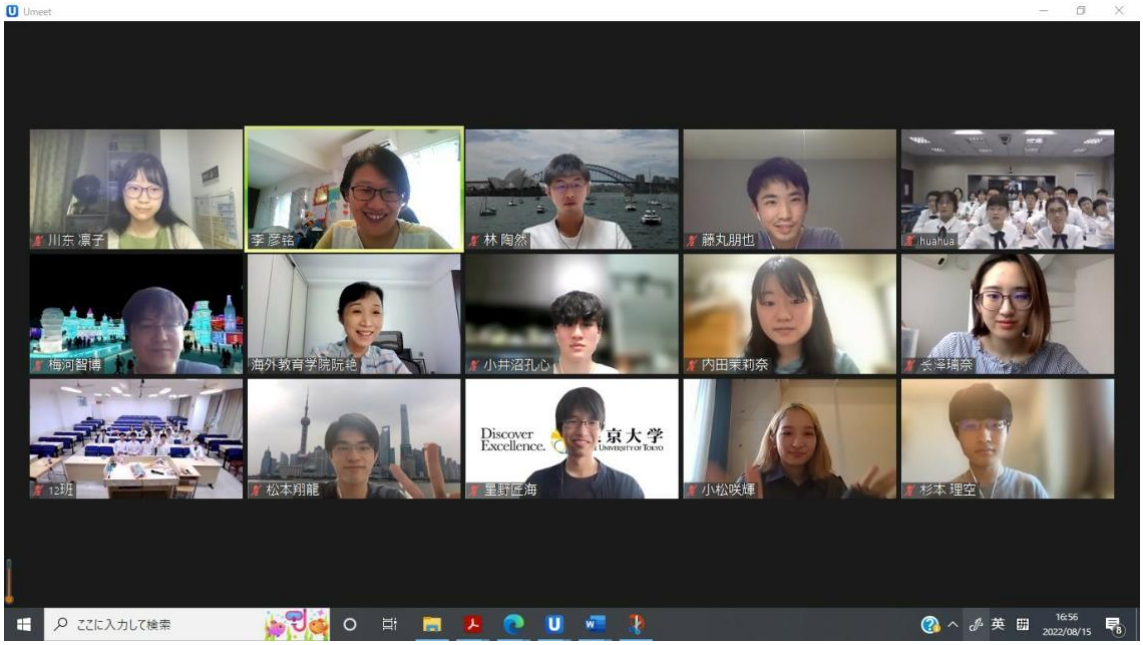
それらのビデオを見終わった後、今度は大学生側の発表の時間でした。正直に言うと、僕のいた班では僕も含めて 3 人とも発表があることを意識しておらず、急に出番を振られたのでとても焦りました。特に何も準備していなかったので、私たちにできることは、自己紹介をすることと生徒たちに様々な質問をすること、そして逆に高校生からの質問に答えることしかありませんでした。そんな状況の中、高校生が積極的に様々な質問をしてきました。「東大に受かるためのコツは何か？」など、その多くの質問が容易に答えることのできない質問でした。しかし、この時間に積極的に高校生に質問をしたり、逆に質問に答えたりするなど、たくさんの高校生と交流ができたので非常に有意義な時間でした。

1 週間後の 22 日に今度は 2 年生との交流会が開かれました。前半の高校生側の発表ではビデオを見たりプレゼンを聞いたりしました。その内容は、南京の食文化や中国全土それぞれの省の食文化を紹介するという内容でした。未知の料理がたくさん紹介されていたので、中国料理の多様性を改めて実感しました。また、中には自分の妹について紹介する人もいました。「妹はとても多くの習い事をやっています！」とその女子高生は自慢げに話していたので、僕は彼女にたくさんの質問をしました。我ながら流暢に質問することができたので、い

い中国語コミュニケーションの練習になったと思います。

1 週間前の反省を生かし、今度はしっかりと自己紹介スライドを準備してきました。自分の趣味や地元について全て中国語を使って説明しました。特に印象に残っているのは、中国のサッカーリーグを見ていたことがあると話すと、とある男子もそのサッカーリーグを見るのが好きだと言い、意気投合してしばらく中国サッカーの話を中国語で彼としたことです。他の生徒からも多くの質問をいただき、それら一つ一つに丁寧に答えることができたことが、自分の語学力の自信につながりました。

（執筆：梅河智博）



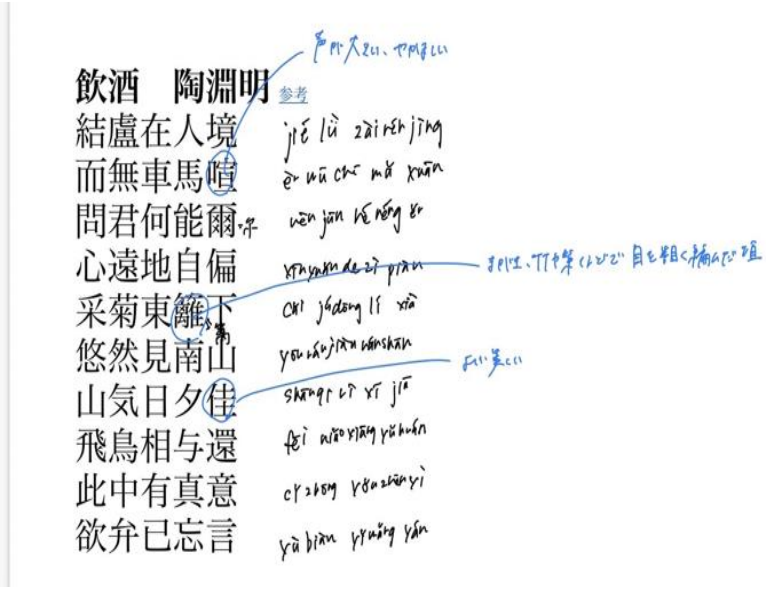
（集合写真）

１．３東大生の交流[1]

漢詩朗読会

これは小松同学が企画してくれた有志の企画で、漢詩を現代中国語で実際に朗読してみようというものでした。

事前に小松同学が選んでくれた『飲酒』陶淵明、『春望』杜甫、『春暁』孟浩然、『老子』の一節、『沁園春』毛沢東、『長恨歌』白居易、『夏夜嘆』杜甫の合計７つの詩について、拼音をみんなで確認した後、順番に１行ずつ読んでいきました。

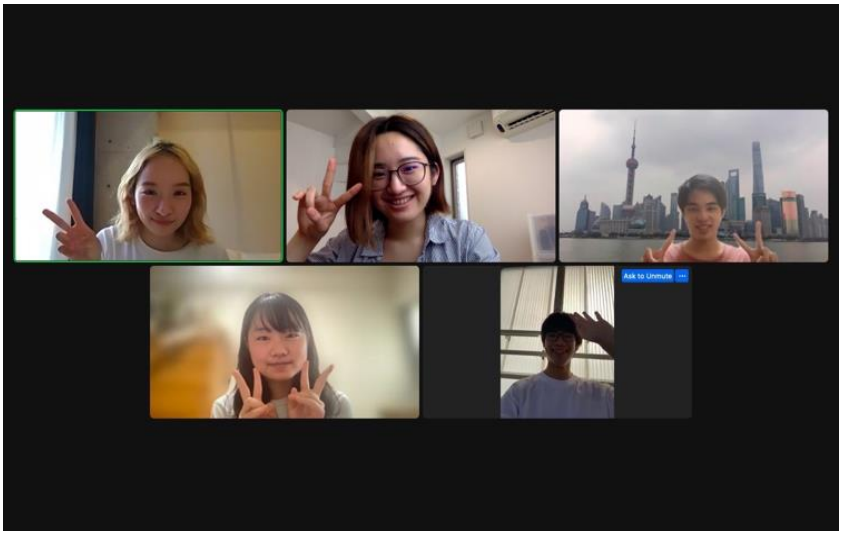


[1] 今年の春から日本側はほぼ対面授業に戻ったことを受けて、事前学習や学習効果を高めるためにサマースクール説明会以降、事前勉強会が複数回開催されました。その後学生間交流がさらに進み、カリキュラムではなく学生たちが自主的に展開したさまざまな活動もここで報告させていただきます。

当たり前ですが、日本語の書き下し文で読むのと、実際に中国語で読むのでは全く印象が違い、面白かったです。読んでいるうちに、1 年半ほど前に、大学受験の漢文の勉強をしていた頃のことを思い出しました。と同時に、あの頃はここにある中国語を 1 文字も読めなかったし、また工夫の凝らされた押韻や詩文に散りばめられた中国語の美しさを今のように感じ取ることは出来なかったとも思い、形容しがたい感慨深さに襲われました。

受験の頃から実際に中国語で漢詩を読んでみたいとずっと思っていたので、夢が叶った気がしました。とても楽しい時間を過ごせましたし、他の中国語学習者にもぜひおすすめしたいと思いました。小松同学ありがとうございました！

（執筆：内田まりな）



（朗読会の様子）

東京小旅行

この小旅行は、東大生が南京大学の生徒たちに東京大学や東京を紹介するためのムービーを撮るために行いました。この日は午前中に駒場で南京研修をうけた後に同じく南京研修に参加していた星野同学と一緒に東京観光をしました。この日の旅程表は以下のようなものでした。

駒場→渋谷→池袋→本郷→湯島

特筆して話したいところに絞って思ったこと等を書いていこうと思います。

【渋谷】

今回のメインイベントは池袋の予定でしたが、せっかくなので乗り換駅の渋谷で少し撮影してみました。私の友人の中国人留学生の方から、渋谷は日本のアニメや漫画に出てくるので有名だと言っていて、南京大学の方々も興味を持ってくれるのではないかと思いました。普段なら何気なく通り過ぎる渋谷も改めてみると、特殊な空間であると思いました（待ち合わせ場所として使われる日本一有名な犬がいることなど）。

【池袋】

今回の旅のメインはここでした。池袋といえば中国人も多く暮らしており、中国人街が存在することで有名です。私たちは池袋にある中華料理店に入りました。

店内にいる人は私たち以外は中国人で、お店の方もお客さんと中国語で話し

ており、まるで本当に中国にいるかのような不思議な空間でした。

私にとってはメニューも驚きでした。おそらく日本人客用に用意された定食はとても安価で食べやすいものになっていましたが、単品メニューに関しては日本でよく見る中華料理店では見られないような料理ばかりでした。一番衝撃だったのは「蚕」が料理になっていたことです。せっかくの機会だから普段食べられないようなものを食べようと思って臨みましたが、これだけは勇気がな

くて頼めませんでした。個人的には「西红柿炒鸡蛋」が一番おいしかったです。

池袋のドンキ・ホーテに入ってみると、「中国コーナー」を見つけました。商品名から成分表示まで全て中国語で書かれた正真正銘の中国商品が並んでいました。（交流会の際には、南京大学の学生の方も「中国でもとても有名だよ」と言っていました。）

【本郷】

本郷周辺には、孔子廟や蒋介石の銅像など、中国とゆかりの深い場所が多くあります。また、東京大学自体も中国と深い関わりがあります。東京大学の源流の一つである「昌平坂学問所」という学問所は、現在は「湯島聖堂」として一般公開されています。そして、湯島聖堂は中国の思想家・朱熹の思想である朱子学を重んじた徳川綱吉が建立したものです。

湯島聖堂

【最後に】

この中国語サマースクールを通して、中国に関するさまざまな知識をつけることができました。単語力はもちろんのこと、文化や習慣など、自分の今までの人生では触れてこなかった領域を知ることができた経験は私にとって刺激的でした。文化を知ることができたために、中国人留学生の人たちとの交流がスムーズになったように感じました。また、自主的な課外活動を通して、日本にいながらでも中国を感じることができる地がとても多くあることに気付かされました。将来自分が中国へ旅行するまでに、日本にある「中国」を堪能し尽くしたいと思います。

（執筆、撮影：藤丸朋也）

みんなで「海底撈」

6 月 28 日（火）の夜に、南京大学プログラムに参加するメンバーのうち 6 人で新宿にある「海底撈火锅」の店に行きました。

店に入った瞬間から、この店の雰囲気が完全に中国の飲食店の雰囲気だと察しました。客もほとんどが中国語で会話をしており、日本人はあまりいないと感じました。後の店員さんの話では、この店に来る客は、基本的に中国人同士で来たり中国人が日本人の友達を連れてきたりする場合がほとんどで、日本人だけで来る人はあまりいないそうです。

店の店員さんは接客が非常に上手かったです。お水を飲み干すと呼ばなくてもお水を注いでくれることや、注文の説明が非常に丁寧なことが特に印象に残っています。メニューは基本的に単品で頼むスタイルで、お肉や野菜など様々なメニューを頼みました。メニューの注文はタブレットを使って行う形式で、私たちはわざとそのタブレットの言語設定を中国語に変更したので、一部のメニューは聞いたこともない名前で表示されていました。お肉や野菜のほかにも、揚げパンなどのサイドメニューや杏仁豆腐などのデザートを注文することもありました。

鍋の出汁は白湯鍋と「麻辣」鍋、昆布出汁鍋、それから味噌もつ鍋の 4 種類にしました。日本のしゃぶしゃぶでは必ずタレをつけて食べますが、火鍋の場合はすでに出汁に味がついているので、必ずしもタレをつける必要がないことに少し驚きました。タレのバーは追加料金が発生するとのことだったので、皆

タレなしで火鍋を楽しみました。

特に印象に残っている具材は、ハチノス（蜂巣胃）と魚団子（魚丸子）でした。ハチノスは食感が非常に特徴的でしたし、魚団子は中に入っている具（牛肉？）がとても美味しかったです。また、店員が直接テーブルまで来て麺の生地を伸ばすパフォーマンス（功夫面）も非常に迫力があり見ごたえのあるものでした。

（執筆、写真提供：梅河智博）

Ⅱ. 感想編

２．１南京大学教員の感想

李宇晨:写给东京大学的同学们

一眨眼为期三周的东京大学暑假班就结束了，但是同学们给老师留下了深刻的印象：内田茉莉奈同学上课积极思考、踊跃发言，积累了很丰富的词汇量、对于新知识的运用非常好，而且笑容甜美，很有感染力；梅河智博同学的语法知识基础非常好，口语进步很快，在课堂上的表现力非常强，老师很喜欢，预祝梅河同学 HSK6 级顺利通过；丸山晴树同学的报告准备得非常充分，学习态度非常端正，语法知识的基础也不错，会使用一些很地道的汉语口语来表达，谦虚而幽默，未来可期；松本翔龙同学的语言组织和表达能力很出众，发音非常标准，创新能力很强；星野匠海同学积累了很丰富的词汇量、而且对于新知识运用地非常好，具备极强的语言学习能力；林陶然同学虽然是华裔，有着很好的汉语基础，但是依然一丝不苟地完成学习任务，没有任何懈怠，这是很值得表扬的。最后祝同学们学习进步、身体健康，希望有机会能和你们相聚在南京大学！

任课老师：李宇晨

2022 年 8 月末

東京大学の学生のみなさんへ

東京大学との 3 週間のサマープログラムはあっという間に終了しましたが、みなさんのことは深く印象に残っています。内田まりなさん：積極的に考え

て、活発に話し、豊富な語彙を蓄えているだけでなく、新しい知識をとてもうまく使えましたね。素敵な笑顔は人を惹きつけます。梅河智博さん：文法の基礎がしっかりしているうえにスピーキングの成長も早く、授業では持ち前の表現力を発揮していて、先生は好きでした。その調子で HSK6 級に合格できることを祈っています。丸山晴樹さん：発表は十分に準備されていて、学習態度はよく、基礎的な文法知識もありました。ネイティブの使う言葉を使うこともでき、謙虚でユーモアがあるので、未来に期待が高まりますね。松本翔龍さん：言葉を組み立て表現する能力に抜きん出ており、発音は非常に良いです。創造的な面にも長けています。星野匠海さん：星野さんも豊富な語彙を蓄え、新しい知識をとてもうまく使えましたね。また、極めて高い語学学習能力を持っています。林陶然さん：中国にルーツがあって中国語の基礎があるにもかかわらず、怠けず実直に勉強に取り組んでいました。賞賛に値することだと思います。最後になりましたが、みなさんの学業の進展と健康をお祈りするとともに、機会があればいつか南京大学で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

担当講師：李宇晨

2022 年 8 月末日

（翻訳：丸山晴樹）

汪天源

东京大学短期研修班结束了，但是作为南京大学海外教育学院的优质项目之一，既提高了学生的汉语水平，同时也让中日双方实现了互相了解，促进了文化交流。在本次研修班期间，最让我印象深刻的是东京大学学生们的刻苦与努力，虽然每次的任务都比较艰巨，但是大家依然能够认真地完成老师们布置的各项任务，保质保量。在老师指出发音错误的时候也能够虚心接受，努力改正，不断重复练习，这都是令人赞赏的学习品质。最令我印象深刻的是每次口语课同学们的发表，在做了大量的前期准备后，每位同学都能够清晰地表达自己对于话题的观点与态度，其他同学也能够认真聆听，及时提出自己的见解和疑问，老师总结观点时也总是虚心接受，在下一次课的时候争取表现得更出色。

虽然只有短短三周，但是大家都抓住了这次珍贵的学习机会，力争上游，每位同学的出色的表现都令我印象颇深，希望东京大学的同学们都能够继续好好学习汉语，了解中国文化，不断进步，为中日友好交流贡献自己的一份力！

東京大学の短期研修は終わりましたが、南京大学海外教育学院の優れたプログラムの一つとして、学生の中国語能力を向上させただけではなく、中日双方の相互理解を実現させ、文化交流を促進しました。本研修の期間で、最も私に深い印象を与えたのは東京大学の学生の刻苦と努力する精神です。毎回のタスクはどれも大変骨が折れるほどでしたが、それでも皆依然として先生方が与えたタスクを真面目に完成させ、質と量ともに高い水準を保つことができていました。先生が発音ミスを指摘した際にも素直に受け入れ、努力して矯正し、何度も練習していました。これらは全て賞賛に値する学習態度です。最も印象深

いのは毎回の会話クラスでの学生たちの発表です。事前準備をみっちり行った後、各学生がはっきりとトピックに関して観点や態度をはっきりと表現できており、他の学生も真面目に傾聴しており、その都度自分の見解や意見を発表することができていました。先生が観点をまとめる時にも素直に受け入れ、次のクラスの際に優れたパフォーマンスができるように努力していました。

3週間という短い期間でしたが、皆今回の貴重な学習の機会を無駄にせず、高い目標のために奮闘し、各学生が素晴らしいパフォーマンスをしていたことは大変印象深いものでした。東京大学の学生たちがしっかりと中国語学習を継続し、中国文化を理解し、進歩を止めず、中日の友好的な交流のために自分の力を捧げられることを願っています。

（翻訳：星野匠海）

杭蕾：2022年东京大学短期班授课感想

快乐的时光永远都是那么短暂，三周的汉语学习这么快就结束了，我真的依依不舍。这是我第三次参加东京大学暑期学校的项目了，也是第三次和我们东京大学的同学相遇了。但是无论相遇多少次，我依然觉得自己很幸运，可以认识大家，可以和大家一起学习，一起进步。虽然因为新冠疫情的影响，我们没有办法面对面地交谈，但是隔着屏幕，我也能感受到大家的善意，大家对于中国，对于中文那一颗迫切想要了解的心，所以我竭尽全力想和同学们分享，这一次我选择了用更多的时间去和同学们交流中国的文化，中国的生活，希望通过我的介绍，大家可以对这个国家有更加具象，更加全面的了解。

能够认识大家真的太好了，小井沼同学、小松同学、杉本同学、藤丸同学和长泽同学，能够认识大家真的太好了。你们是一群有礼貌、温柔的学生，对于学习，你们总是报以最大的热情和努力，对于我，你们总是报以最大的尊敬和包容。在和你们一起学习的这三周里，我也了解到了很多我以前从未了解的日本，我们一起交流中日年轻人相似又不同的压力，你们关心自己的学业，也关心这个社会，这个世界；我们一起讨论谎言的意义，感受人性的美与恶；我们一起尝试写中文的简历和求职信，希望能在未来能和中文和中国产生更多的联系。你们求知的那种精神，总是打破砂锅问到底的毅力，对于学术的研究真的让我一次次惊叹，佩服，虽然有的时候因为语言的障碍，你们无法表达你们全部的想法，但你们从不畏惧，勇敢试错，更让我体会到了语言学习的魅力，不要害怕，哪怕我说的单词，语法有问题，但只要我的表达你能明白一点点，我就应该高兴，因为我在进步呀！是你们让我意识到自己也应该始终保持对知识这样的热忱。你们总是对我表达感谢，但事实是我也想对你们表达我最诚挚的谢意。希望你们一定不要放弃中文学习，加油！

我想把最好的祝福都送给你们：“愿你没有遗憾，愿你笑容灿烂，愿你三冬暖，愿你春不寒，愿你勇敢，愿你平安，愿你没有苦难活的简单，愿你前程似

锦，不凡此生，愿你历经时间仍是少年。”请一定要勇敢去追逐自己闪闪发亮的梦想，如果是你们的话，我相信一定没问题的。新冠疫情终会结束，而我们也一定会再见，会相逢在南京，在东京，希望那时的你们一切得偿所愿，应有尽有。

最后，我想对再一次项目中辛勤付出的所有人表达感谢，祝愿所有的老师同学身体健康、万事顺意。

杭蕾

2022 年 8 月 27 日星期六

2022 年東京大学短期プログラムの授業を振って

楽しい日々はいつでも短いもので、非常に名残惜しいことに、3 週間にわたる中国語のプラグラムはこんなにも早く終わってしまいました。東京大学のサマースクールに加わるのは今回が 3 回目で、東京大学の学生に会うのも 3 回目のことでした。しかしそれが何度目であったとしても、こうしてみなさんと知り合うことができて、共に学び、共に成長できるのはやはり幸せなことだと思っています。新型コロナウイルスの影響により、対面で顔を合わせることはかないませんでしたが、画面を通して、熱烈にみなさんが中国について、さらには中国語についてもっと知りたいという思いや、みなさんの好意を感じ取ることができました。したがって、私は余すところなく全力を尽くしてみなさんと分かち合い、今回は多くの時間を割いて中国の文化や暮らしについて説明しました。これらの話が、みなさんが中国という国をより具体的かつ包括的に理解するための一助となることを願っています。

そして、小井沼くん、小松さん、杉本くん、藤丸くん、そして長澤さん、皆さんと知り合うことができて本当に良かったです。あなた方はとても礼儀正しく、穏やかで、学習に最大限の熱意と努力を持って答え、私にも最大限の尊敬と歓迎を持って答えてくれました。あなた方と一緒に学んだこの 3 週間の中で私もたくさんの知らなかった日本のことを知ることができました。日中の若者のストレスの相違点、自身の学業、社会や世界への関心などについて意見を交換しました。嘘をつく意義について討論し、人間性の美醜を感じました。一緒に略歴やビジネスメールを書いたりもしましたね。将来、中国語や中国との関わりをもっと増やすことができるようにと願っています。皆さんの知を求める精神、いつもとことん質問する姿勢、学術分野に対して調べる姿勢は毎度私を驚嘆させ、敬服させました。時には言語の障害で全ての考えを上手く使うことができなかったこともありました。しかし、恐れることなく、勇敢にも間違えを気にせずとりあえず言おうという姿勢は、「単語や文法に間違いがあろうが、相手が自分の言いたいことを少しでもわかってくれさえすれば御の字である。何故ならこれこそ成長だからだ！」と言うことを思い起こさせてくれました。あなた達の存在こそが一生涯にわたって知を求める熱意を失ってはならないと言うことを私に気づかせてくれました。だから、私こそあなた達に誠心誠意の謝意を伝えなくてはならないと思いました。これから先も中国語の学習を諦めずに頑張って下さい。

また、皆さん全員に最大の祝福を送りたいと思います。後悔のないように、笑顔が輝きますように、穏やかな冬春を過ごすように、勇敢であるように、無

事であるように苦難のない平穏な生活であるように、明るい未来、非凡な人生があるように、いつまでも若々しくあるように、願っています。自らの輝かしい夢を勇敢に追って下さい、あなた方なら大丈夫だと私は信じています。コロナ禍が終わったら、また南京でも東京でも再会できるでしょう。その時にはあなた方が望むものを叶え、全てを手に入れていると願っています。

最後に、今回のプログラム中に懸命にサポートしてくださった全ての人々に謝意を表します。全ての先生方、学生の皆さんの健康と順風満帆を願っています。

杭蕾

2022 年 8 月 27 日土曜日

（翻訳:小井沼孔心、丸山晴樹）

南京地标，总高度450米，地上有89层。设计灵感来自“龙”，一片片玻璃像一片片龙的鳞片，在晚上会发出蓝紫色的光。

南京のランドマークです。 建物のデザインは「夜になると、龍の体は青紫色の光を放つ。」からインスピレーションを受けたそうです。

王大莹

疫情第三年，我和东京大学的孩子们又如约在线上开启了暑期的中文课。

在今年这个异常炎热的八月，同学们本身又有志愿活动、重要考试或者兼职、其他活动任务在身的情况下，每天坐在电脑前坚持学习三周的汉语课并完成作业实属不易。但这也让我看到了他们对中文的热爱和学好中文的决心。

他们课上积极吸收课本中的知识，并且能联系所学知识不断输出对中国文化、诗词、名著、饮食、旅游以及社会经济各方面的认知。这种将语言与实践融会贯通的意识难能可贵。相信凭借锲而不舍的精神和正确的学习方法，他们的汉语水平会越来越高。

三周的时间匆匆而过，有依依不舍，有美好的回忆，更有对未来的期待。希望大家能珍惜一去不复返的光阴，勇敢追求自己的理想，将来都能把自己“铸造成器”！

2022 年 9 月 1 日

パンデミック 3 年目、私と東京大学の学生たちはまたオンラインで夏休みの中国語クラスを開催することになりました。

今年の異常な暑さの 8 月に、学生たち自身もボランティア活動や重要な試験や別のタスクがあるなど、他の活動のミッションを背負っている状況で、毎日パソコンの前に座って 3 週間中国語学習を続け宿題を完成させるというのは間違いなく簡単なことではなかったでしょう。しかしこのことで私は彼らの中国語に対する愛と中国語をマスターするという決意を見てとったのです。

彼らは授業中積極的に教科書の知識を吸収し、さらに学んだ知識を中国文化、詩歌、名著、食文化、旅行並びに社会経済の各方面の理解と関連付けてアウトプットを続けることができていました。こうした言語と実践によってあらゆる側面を知り尽くして全面的な理解に達しようとする意識は誠に見上げたものです。不屈の精神と正しい学習方法によって、彼らの中国語レベルはますます向上していくものと信じています。

3週間という時間は慌ただしく過ぎていきました。名残惜しさがあり、美しい記憶が残り、未来への期待が一層膨らみました。皆さんが二度と戻ることのないこの時間を大切にし、勇敢にも自分の理想を追求し、将来「成器を鋳造する（＝立派で有益な人間になる）」ことを期待しています。

（翻訳：星野匠海）

２．２参加者の感想

『中国語能力と食文化』

内田まりな

南京大学プログラムを通して得られたものは、大きく分けて二つあると思います。一つ目は言わずもがな、この研修の主要目的である中国語能力です。初日の精読の授業で、私は先生の言っている内容の 9 割が理解できませんでした。私の聴解能力を超えて展開していく授業、先生の質問に難なく答えていく他のクラスメートたちの中国語能力の高さに気後れしながら、第 1 週は過ごしていたように記憶しています。それでも懸命に食らいついて、聞き取れない時は素直に“请再说一遍”と言い続け、最終的に最後の授業では、5 割理解できないくらいまでに成長することができました。先生からの質問も前後の文脈がわからなくても、大体的を外さずに答えられるようになっていました。ひたすら中国語を浴び続けられるという環境で 3 週間も中国語を学習できたのは本当に貴重な機会だったと実感しています。

二つ目は中国文化への理解が深まり、また関心が高まったということです。これらは主に午前中の授業での先生の雑談や午後の交流会で学ぶことができました。特に印象的だったのは、中国人自身の食文化への理解の深さです。そもそも私は中国料理が好きなので、折々で中国食文化に関する質問をしていました。ある日の課題で「南京のおすすめの食べ物はありますか？」という質問を私は先生に投げかけました。するとなんと、次の授業で先生が 30 分にも上る

南京食文化のプレゼンをしてくださったのです。私の瑣末な質問にここまで熱心に答えていただきありがたかったというだけでなく、その食に対する知識の深さと情熱に感動したのが印象的でした。先日、私はその時に学んだ「鴨血麻辣烫」という料理を実際に食べに行きましたが、非常に美味しかったです。他にもまだまだ試したいものはいっぱいあります。中国語を学ぶモチベーションが新たに１つ増えたというのも大きな収穫でした。

上でまとめた２つの学びは、あくまで大きく分けただけです。そのため、他にも挙げ切れないほどの学びがありました。今思い返しても、この３週間はとても貴重な機会であり、かつ私のこれからも続く中国語学習に大きな影響を及ぼしたことは間違いありません。

『解放、そして新たな挑戦』

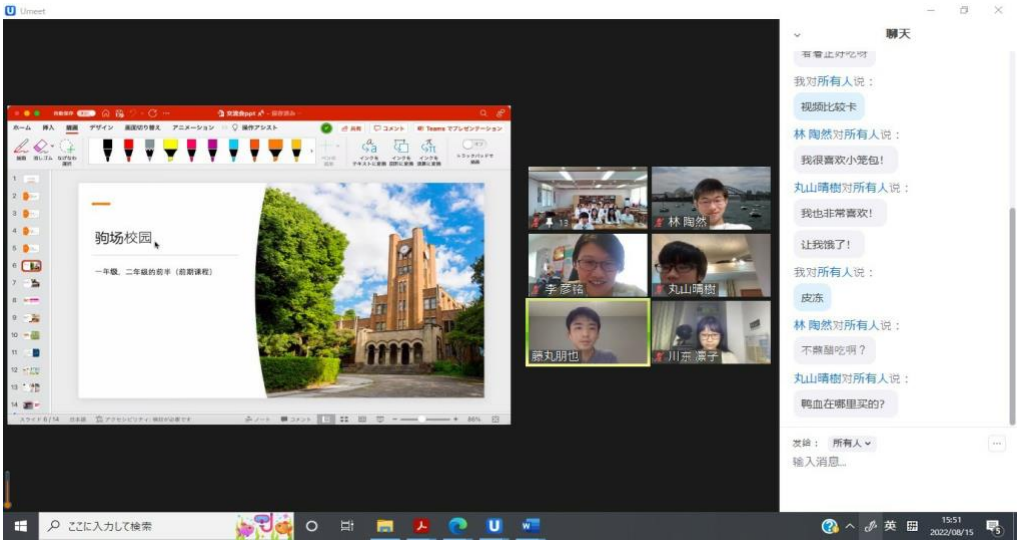
藤丸朋也

私の中高時代を費やした大学受験もついに終わり、私は 2021 年の春、感じたことのないほど晴れやかな気持ちでいっぱいでした。—やっと自分が勉強したいことを思うままに勉強できるという期待で胸を膨らませていました。大学に入ってから始めた勉強でとても新鮮だったのは、第二外国語で取った中国語の授業です。元はと言えば、もう受験でアルファベットを見るのには疲れたし、漢字が昔から好きだったから、という軽い理由で選んだように思います。しかし、学んでみると受験で学んだ漢文とは全く異なり、新しい発音や新しい文法、新しい語彙を学んでいくこと自体が楽しかったのです。これは中学一年生の頃に感じた英語に対してのワクワクした気持ちに似ていると思います。そんなワクワク感がたまらなく好きで、一年生の頃は熱心に勉強しました。しかし、一年生が終わって仕舞えばもう学ぶことはないのだろうか、という不安感があったし、せっかく勉強するならせめて少しはできると言える段階に行きたいという思いがありました。なので、一年生の初めの頃から、この二年の夏の南京研修を自分の中国語学習の集大成にしようと心に決めていました。

学んでいくうちに気づいたことがあります。それは一年生の授業だけではリスニングやスピーキング能力がつかないということです。私は TLP（トライリンガルプログラム）生でもないので、これまで受けてきた授業はそこまで高いレベルになるための授業ではありませんでした。一年次が終わりに近づいてい

くにつれて、次第に私は不安になって行きました。本当に二年の夏の南京研修に間に合うのかと。私はHSKを受けるなどして努めたがやはり容易なことではありませんでした。そしてついに二年生になりました。

この研修には事前学習というものがあり、自主的に研修を受ける仲間同士で課外活動をしたり、中国語を勉強したりします。そこで出会った友達は、私が出会ったことがないほど中国語に対して熱心に取り組んでいる人たちでした。彼らの勉強法などを聞いてとても刺激になり、モチベーションに繋がりました。おすすめしてもらった参考書や勉強法をいろいろ試してみました。



（高校生との交流会）

そしてついに、南京研修が始まりました。正直、始まるまでに自分にとって十分なレベルの中国語力はつけられなかったが、やはり中国人の先生方や学生の方々と話すのはとても楽しかったです。自分が中国語で会話できていると感じられる場面もあり、とても自信に繋がったように思います。また、文化につ

いての授業は一年生の頃には習わなかったような、より詳細な現状や習慣をたくさん教わりました。南京大学の先生に中国のポップミュージックを流してくださった方がいたのですが、自分が想像していた以上に聞きやすい音楽が多い（J -POP に近いものを感じたからでしょうか）ことがとても衝撃的でした。

終わってみれば、3 週間はあっという間でした。この短い期間で、リスニングやスピーキングに関しては以前よりも遥かに向上したのを実感しました。やはりずっと外国語を浴びられるような環境にいる時が最も言語の成長速度が速いということを、身をもって体感できたように思います。そしてここまで勉強した中国語に関しては、自分の人生でこれで終わりということにはならないと確信しています。今後も（まだ未定ですが）なんらかの形で中国や中国文化に触れ学習を継続させていきたいと思っています。

このような貴重な機会を与えてくださった東京大学、ならびに南京大学の先生方にはこの場をお借りして感謝申し上げます。そして、この研修は中国語に対するモチベーションの高い学生をより実践的な力にまで引き上げるのにかなり貢献していると感じました。今後も、このプログラムを通して、日本と中国の橋渡しとなるようなグローバルな人材が一人でも増えてくれたらと祈っております。

『自信とモチベーション』

梅河智博

8 月 8 日から 26 日の 3 週間の間、南京大学オンラインプログラムが行われました。この期間、平日の午前中に 2 限分の中国語の授業が行われたほか、月曜日に 2 回南京市の高校生との交流会があったり、金曜日に 2 回南京大学の学生との交流会があったりしました。

このプログラムのメインとなる活動は、やはり平日に毎日行われる中国語の授業でした。前半と後半で先生が交代する形で授業が行われ、使用言語は中国語のみでした。前半と後半どちらも長文を扱うという点では共通していた一方で、前半の授業では私たち生徒の発言機会が多かったのに対し、後半の授業では主に文章に出てくる新出単語の解説が中心でした。しかし、後半の冒頭には私たちが交代で中国に関する内容を扱ったプレゼンを行ったので、授業全体を見ても学生が中国語を話す機会は十分にあったといえると思います。特に前半の授業では、自分の意見やエピソードを中国語で表現する機会もあったので、個人的には会話する時間が十分に設けられていて非常に満足できる授業だったと思います。また、先生が終始ひたすら中国語のみで授業を進めていたので、リスニングのトレーニングとしてはこれ以上ない経験になりました。

午前の授業に加えて、月曜日と金曜日の午後には交流会が行われました。僕は個人的に高校生との交流が非常に印象に残っています。高校生が僕たちのために制作したビデオのクオリティはとても高く感動に値するものでした。中国

の食文化や彼らの生活がわかりやすくまとめられており、中国の文化を知るにあたってとても参考になりました。また、高校生に様々な質問をすることや、逆に高校生の質問に答えることなどを通じて高校生と積極的なコミュニケーションをとることができたので、高校生との交流会は非常に有意義で楽しいものでした。南京大学の学生との交流で一番印象に残っているのは、日本の各都市について中国語でプレゼンをしたことです。この発表のために入念に準備をしてきたので、本番では予想以上に時間をとってしまいましたが、自分たちの文化について外国人に外国語で紹介することは想像以上に楽しいものでした。

今回のプログラムに参加してよかったと思う理由が 2 つあります。

一つ目の理由は、自分の語学力に対する自信につながったことです。授業や交流会を通じて、自分が今まで培ってきた“听力”や“口语”が十分にネイティブに通用するものであったことが証明されたので、結果的に自分の語学力に対する自信がさらに高まりました。プログラムに参加する前は、自分の言葉が通じるのか、あるいはネイティブの発言をうまく聞き取れるのかという不安がありましたが、予想以上に相手は自分の中国語を理解してくれたし、相手の言葉を理解するのに苦労しませんでした。今までの自分の勉強の積み重ねが無駄ではなかったことが示されたと思います。

二つ目の理由は、これから中国語を学んでいくモチベーションがさらに高まったからです。先ほど述べたように自信が高まった結果、モチベーションが高まったともいえますが、やはりこのプログラムを共に受けた“同学们”が僕のモ

チベーションを最も高めたと考えています。僕は第二外国語で中国語を選ばず、ひたすら自分で中国語を勉強してきたので、共に勉強する仲間がいませんでした。このプログラムではそのような仲間ができましたが、彼らが自分以上に努力している姿を見て、自分も彼らに負けずにこれから一生懸命中国語をマスターしていかなければならないという危機感が生まれ、それが結果的に自分のモチベーションを高めました。これから彼らも中国語の学習を続けていくと思いますが、彼らの努力を見習いながら自分も目標に向けて中国語の勉強を頑張っていきたいと考えています。

『「外国語選択の手引き」を振り返る』

杉本理空

突然ですが、ここで入学試験終了時に配布された「2021 年度 外国語の学習について ―外国語選択の手引き―」(以下、「手引き」とします)の一部分と照らし合わせながら、自分のサマースクール等における中国語学習を振り返ることにします。「手引き」は第二外国語を選択する段階でほとんどの東大生が読むものであり、いわば私の中国語学習の原点であるからです。

「手引き」には、第二外国語を学ぶ意義を次のように挙げていました。

「特定の外国語を一つ学習しただけでは、母語とそれとが異質であることは認識できても、第三の言語を学習しなければ、人間の言語の多様性は感得できません。（中略）言語を通じて論理的思考、規範的評価を行う人間にとって、言語はその文化的アイデンティティの核心をなすものです。それゆえに、言語

によってどのような主張を行うにせよ、文化圏を超えて通用する説得力を持つには、言語表現の持つ精密さに敏感でなければなりません。」

この文章は入学試験終了当時にも読んだものでしたが、正直に言うと当時はあまり内容を理解することができませんでした。その当時はまだ、この文章に書かれている「人類の言語の多様性」や「言語表現の持つ緻密さ」を十分に感得していなかったため、それがどのようなものでどのように重要かが理解できなかったからです。

サマースクールにおいては、これらの問いの答えを少し実感と共に理解することができたと考えています。この感想文においてはサマースクール等での実体験を元に、それぞれについて手短に説明しようと思います。

「人類の言語の多様性」については、これは中国語のみをとっても広い多様性があることを実感しました。中国の方言はかなり幅広く種類があり、方言が違えば全く通じないということもあるようです。実際東大の授業でも広東語の授業が開講されていますが、これがその一つです。日本語や英語にも方言がありますが、方言が違えば全く通じない、というほどの大きい違いはなかったでしょう。中国語や中国人において方言の違いというのはとても重要な違いであり、我々が大学で学んだ中国語（いわゆる「普通话」）が非常に重要であることを、現地の方々に話を伺うことで実感することができました。

「言語表現の持つ緻密さ」については、これは日本語や英語を学習していてもある程度実感できるものです。しかし中国語を学ぶことによって、かなりそ

の実感具合が広がりました。ここで説明する“緻密さ”はオンラインチャットでの絵文字です。日本にも絵文字はかなり幅広い種類が使われていますが、中国のそれも日本に引けをとらないくらい幅広く、そして日本とは異なる使われ方をしています。絵文字は文末につける絵文字が少しずれると全くニュアンスが異なって見えたりするもので、個人的には緻密なものだと考えています。中国語においても同じような緻密さがあることには驚きました。

以上のことは、中国語をただ学習しているだけではなかなか実感しづらいことであり、私はサマースクールにおいて現地の方々と交流することにより始めて強く実感することができました。ここで説明した事柄は外国語学習において重要なことであり、これらを感得するチャンスを与えてくださった先生方や南京大学・東京大学の同級生の皆さま、およびゼンショーホールディングスの関係者の皆さまには深く感謝いたします。ありがとうございました。

引用文献

太田邦史. “2021 年度 外国語の学習について ―外国語選択の手引き―”. 東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部. (n.d.).

https://www.c.u-tokyo.ac.jp/admission/recommendation/gaikokugo.pdf , (最終アクセス日: 2022/10/02)

1912年1月1日，中华民国成立，孙中山在这里就任临时大总统。到1949年以前，总统府主要是中华民国政府和总统的办公地。

1912年1月1日、中華民国が成立し、孙中山が臨時大統領に就任した。1949年までは、総統府は主に中華民国政府と大統領の執務室だった。

『中国語の夏』

川東凜子

つい数年前まで、自分が中国語を使っていることなど、まったく考えもしませんでした。しかしこの夏、私は中国語を使って、中国にいる中国の人たちと交流をすることまでできました。これは私の人生にとって貴重な体験だった、と考えています。

今回の経験で、私は言語の力を少し、知れた気がします。プログラムの中でとくに印象的だったのは、中国の文化の説明でした。やはり、その土地の言葉で、その土地の人から聞くからこそわかるものがあるのではないか、と感じました。画面越しではあれ、こんなに近くにいるのに、彼らが私とはたしかに異なる環境の中で生きていることや、異国にいるのに分かり合えることなどを体感でき、私と彼らについて、世界について、考える時間になりました。

もちろん、言語学習の面でも、このプログラムは大変有意義なものであったと言えます。普段の学校の授業では、たくさんの情報についていくのに必死だったり、たくさんの学生の手前で萎縮してしまったりしがちな私ですが、このサマースクールの授業では、少人数で、その上能力によるクラス分けもあったことから、落ち着いてコミュニケーションに集中し、楽しむことができました。また、普段の勉強で行き詰まりを感じた時でも、サマースクールを楽しむために頑張ろう、あるいは、折角サマースクールに参加したのだから続けよう、といったように、学習の動機づけとしても役立ちました。

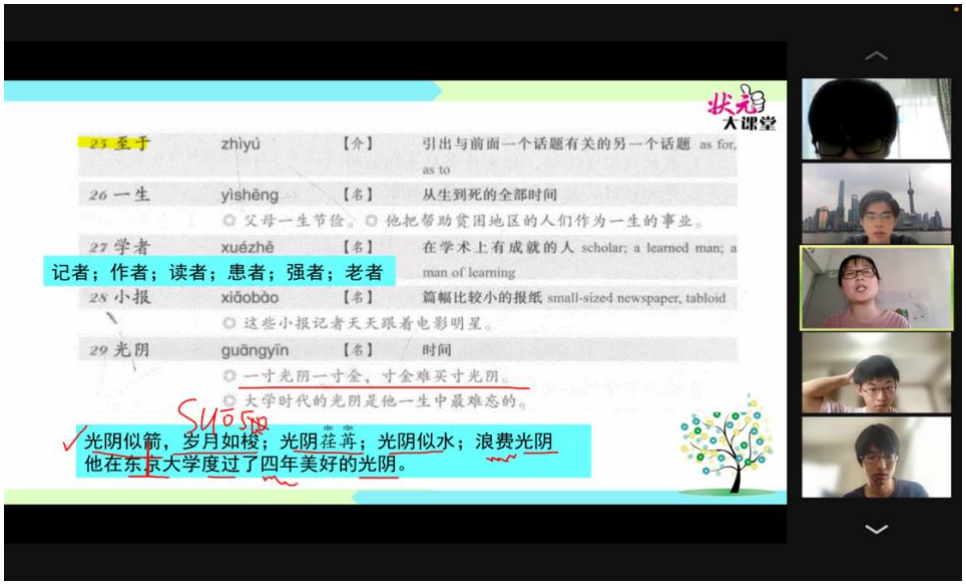
このプログラムは、私の中国語学習にとって、一つの節目ではありましたが、今後もこつこつと勉強を続け、ぜひ今度は実際に中国に赴き、より浸透的な体験をしてみたいです。

最後に、このプログラムを実現させてくださったすべての方々、ありがとうございました。

『光阴似箭，受益匪浅』

松本翔龍

2022 年度南京大学サマースクールに参加する目的は他ならぬ中国語の継続的学習にあった。残念ながらオンライン開催となってしまったが、それ故に 1 クラス 6 人という少人数クラスで濃密な授業を受けることができた。



（新出単語を説明している様子）

授業では毎日一人が 10 分程度のプレゼンを発表することになっていたが、個人的にこれが一番良かったと感じている。私は三国志に由来する慣用句や中国の貨幣についてプレゼンをして、他の生徒は世界遺産や少数民族についてプレゼンを行っていた。自分が発表の準備をする過程で知識が増えたし、ネイティブの先生に都度アドバイスを受けながら説明を補足してもらうことで、表現力が向上し中国文化をより深く理解できたと思う。また、他の生徒の興味深い発

表を聞いて、自分には見えてこなかった中国の一面を知ることができた。

長いようで短い3週間のオンライン研修を終えて、中国語の実力がついたことに実感はあるものの、中国語の語学力以外に得たものが大きいと思う。その一つは、中国語という同じ興味を持つ同級生に出会えたことだ。プログラム中は午後に授業はなかったが、有志で「下午活动」を開き、中国のアニメを鑑賞したり、漢詩を輪読したり、時事的文章を読み解いたりする活動を行った。オンライン開催であってもプログラム参加をした意識の高い同級生とは、今後もお互い良い刺激を与え続けることができる。

そして何より、今後中国語を継続的に学習するモチベーションを得られたことである。今後後期課程の学びで忙しくなると中国語を学習する時間は減少するが、研修を通して中国語学習を進める材料は全て与えられたと思っている。私個人としては、独学を継続させることが苦手なので他者をまきこんで、「下午活动」のような学習を進めたい。

最后，我一定要对两学校各位老师为这个项目付出的努力表示感谢。以线上形式给我们学生提供了宝贵的经验。谢谢！

（南京大学の交流会の様子）

『南京研修感想』

長澤璃奈

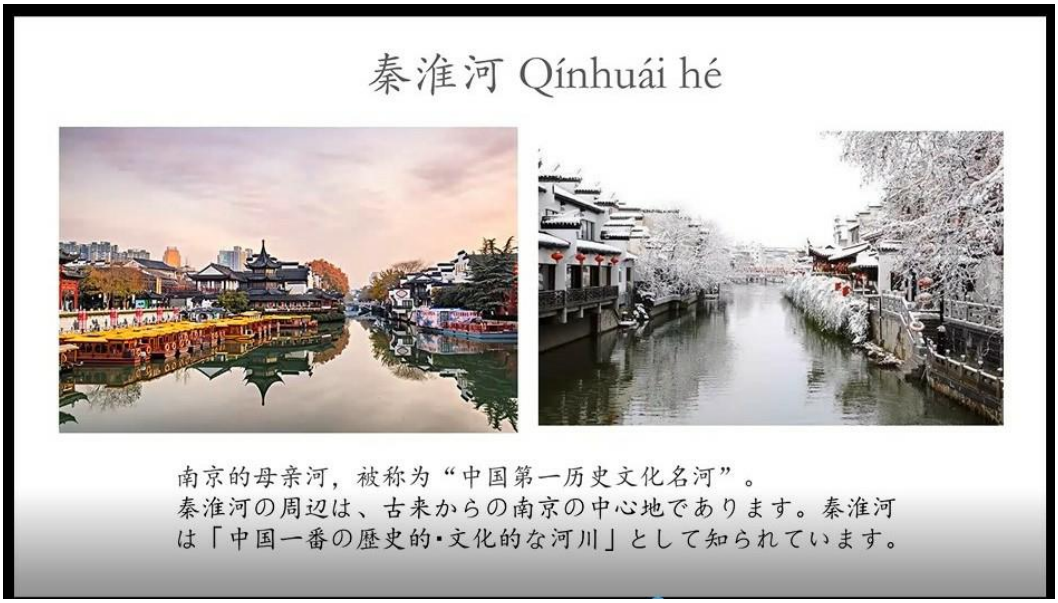
私が南京研修への参加を通して得られたことは、大きく分けて二つあります。

一つ目は、夏季の長期休暇においての持続的な中国語学習のきっかけを得ることができたことです。一年生の夏季休暇の自分の反省点の一つとして、2 ヶ月という高校生までは得ることができなかった自由な時間を十分に有効活用することができなかったことがありました。2 年生の夏ということでサークル活動やインターンの時間を取っていた自分にとって、2 年生の春までに主に TLP の授業を通して学習した中国語を維持し、多少たりとも向上させるためにはやはり半ば強制的な力が必要でした。南京研修というオンラインながらも 3 週間毎日 4 時間以上中国語に触れる期間の中で、これまで自分がそれほど力を入れて取り組んでいなかった中国語でその場で文章を組み立て、発言し、伝えるというプロセスを繰り返し行いました。これは、自分の弱点を再認識させられる機会ともなり、その後も習慣的に日々中国語に触れるようルーティン化するなど、モチベーションを維持するためにも大いに役立ちました。

もう一つは自分が今後後期課程を通してどのように中国への関心を深めていきたいかを決めることができたことです。私は中国文化・思想などへの関心がもともとあり、東大での総合科目などでも積極的に中国に関係した科目を履修するなどしていました。しかし、当時進学振り分けを目前に控えた私は、後期課程において自分の中国という存在を中心において勉強するべきか、違う学問

の枠組みのなかで中国について取り組むのかを迷っていました。南京研修中では、中国語についてだけでなく、南京大学の学生や高校生、先生方が中国の習慣について教えてくださったりして、簡単な内容に限られてしまうものの価値観についての共有などもでき、とても興味深く印象的でした。その結果、自分は中国という地域を対象に自分の興味を深めていきたいと決断し、教養学部の地域文化研究分科へ志望を出す決意をし、無事内定をいただくことができました。直前まで違う進学先を希望していたことを考えると、南京研修での時間は私の人生において大変大きな影響を与えたものだったと振り返っていて感じています。

オンラインという制約がありながらも、3 週間という夏季休暇の約半分にあたる時間で中国語を学習し、中国についての理解を深めることができる期間となり、大変有意義なものだったと感じています。改めて、この研修を可能にしてくださった先生方、ありがとうございました。


秦淮河 Qínhuái hé
南京的母亲河，被称为“中国第一历史文化名河”。
秦淮河の周辺は、古来からの南京の中心地であります。秦淮河
は「中国一番の歴史的・文化的な河川」として知られています。

『充実した３週間』

星野匠海

今回の南京研修は非常に充実した 3 週間となりました。新型コロナウイルスの影響や私自身の至らぬ点で後悔が残る点も多々ありましたが、多くの収穫があり、次の自分の成長につながる大きな一歩となったと感じます。

研修を通して得られたもの、勉強になったことを先に記述します。今回の研修に参加した目的であり、最も収穫が大きかったものはやはり中国語の知識です。中国語の授業では慣用句や時事的な内容に関連した語彙など日本の授業ではあまり出会うことのない言い回しを教わる機会が多々ありました。中国文化を直接中国人から教わり、現代中国人の考え方に直接触れることができたのは貴重だったと感じます。個人的には中国語における“学问”という表現には日本語の所謂「学問」だけでなく、習得できる技能も含まれると知り、中国文化は実用を重んじるといった以前出会った説明に納得しました。もう 1 点は、中国の方々は食文化の話になると目を輝かせるように感じました。そして彼らの自国の食文化への理解の深さには目を見張るものがあり、対して自分は日本の食文化に関していかに不勉強であるかを痛感せざるを得ませんでした。

一方、今回の研修では心残りな点もありました。授業中に教わる知識の量が多かったためということもありますが、主には自分自身の努力不足のため授業に関しては常に準備不足だったことです。予習と復習、授業前のプレゼンテーションなどはさらに努力をすることでより成長できたはずだと感じます。また

交流会では大学生や高校生の発言内容が聞き取れないこともしばしばあり、自分の意図も伝えることには大変苦労しました。これは研修前の準備をより丹念に行っていれば緩和され得たと考えると悔しさが募ります。そして、やはり出来ることであれば現地の風を感じて現地の人と直接触れ合える距離で交流することを通して学びたかったというのが本音です。

課題は残りましたが、しかし全体としては非常に充実した 3 週間だったと言えるでしょう。反省点や無念な点があったからこそ、さらに中国語を勉強したいと感じ、また現地に行くというモチベーションも以前より強まっています。オンラインだったからこそ、研修期間中にはその他の活動にも参加することができ、貴重な大学生の夏季休暇の時間を様々な体験に使うことができたのは南京に実際に行くのと同程度に有意義であったと思います。そして、日本で共に学んだ仲間もできました。

得たものと、得ることができなかったためにさらに得たいと強く思ったものが多くあったため、今回の経験を是非次に活かしていきたいと考えています。

最後に今回の南京研修開催のために尽力された伊藤先生、李先生、白先生、阮先生、1 班で教えてくださった李先生、王先生、楽しい企画を考えて熱意を持って交流してくれた南京大生のみんな、中華料理紹介の際にカメラの目の前で料理を食べるというユニークな実演をして楽しませてくれた田高生のみんな、様々な企画を考えてくれて、一緒に授業を受けてともに成長した東大の仲間たち、皆様に感謝の念を申し上げます。ありがとうございました。

『想像の南京』

丸山晴樹

「大学に入ったらまず中国へ行く」

そう意気込んで、意気揚々とキャンパスライフを開始したのはよいものの、新型コロナウイルスの感染状況は一進一退、中国への旅行目的の入国実現は前途多難なまま。中国語を勉強する中で見聞きした、周囲の人から中国に関する事柄を想像して、中国への憧憬が一人歩きし、頭のなかに大きな中国の虚像を形成したまま、大学 2 年生の夏を私は迎えてしまいました。

そんな私が南京サマースクールに参加したのは、中国に住む生の人と交流するなかで、中国語を学びたいという強い思いがあったからでした。実際に中国の人と練習することで自分のモチベーションになるだろうという期待がありました。曲がりなりにも 1 年半の間、それなりに真面目に中国語に取り組んできたので、自分の力量を試してみたいという思いもありました。自分の中国語はどの程度通じるのだろうか、と。

いざ参加してみると、文法も語彙もそしてリスニングも自分の力不足が露呈しました。南京サマースクールの先生方の要求水準は高く、また周りのレベルも高かったために、授業についていくので精一杯でした。これは非常に自分にとってショックなことでしたが、自分の能力不足を実感できたという点で、非常によい経験だったと思います。そして、中だるみを迎えていた自分に、これからも継続して中国語を学び続けたいという意欲の源をあたえてくれました。

そして、このような挑戦的な環境のなかで、自分のなかの虚像が少しずつ実感ある等身大のものに変わるのを確かに感じました。まだまだ分からないこともたくさんありますが、こうして少しずつ中国の文化や人々について知ることは私にとって喜びでした。

最後に、いつも授業が楽しくなるよう教材を駆使して気さくに教えてくださった李宇辰先生、難しい内容を単語一つ一つまで懇切丁寧に教えてくださった汪天源にこの場を借りて感謝したいと思います。また、普段から授業でお世話になっているうえに、今回無理な日程の要望に嫌な顔一つせず応えてくださった、李彦銘先生および白春花先生、本当にありがとうございました。

『間違えを許さないプライドを捨てる』

小井沼孔心

サマースクールは 3 週間経て終わりました。早いのやら、遅いのやらという感じでしたが本当に毎日天手古舞な日々でした。自分がはじめサマースクールに興味を持ったのは前期教養課程を修了するために主題科目の単位が必要でその単位を埋めなければという義務のもとに主題科目をざっと見ていた時でした。もともと、面倒くさがり屋な性格なのでできるだけ楽をして単位をもらいたいというのが正直な感情でしたが、外国語に興味があった自分はせっかく第二外国語で中国語を 1 年間学んだのだし、好きなことをして単位が取れるのに越したことはないと思い申し込みました。シラバスを読みつつ、「もともとは TLP の人がとるやつなんだ～。」「中国に行ける可能性があるんだ～。」とのんきに構えていました。しかし、サマースクール前の勉強会や試験で自分の中国語が他の学生と比べて劣っていると感じ、内心焦りました。授業が始まってからも、言いたいことがうまく口から出てこず、もっと他の主題科目を取ればよかったかなと後悔しました。しかし、そんな後悔する暇も与えず授業では次から次へと課題が出され、毎日議論の場が設けられ、与えられたタスクを頑張ろうと思うしかなく、気づくとプログラムは折り返しを迎えていました。この時から、ほんの少しだけ、「成長したかも、話せるようになっている？」という感覚を覚えました。そこからは、不思議と授業も課題もつらくなくなりました。授業で覚えた表現を次の授業で話すときに使ってみたり、発表も細部にこだわ

ってみたり、つらさが楽しさに変りました。毎日中国語を長時間聞くことで中国語の音声に少しずつ慣れ、現地の高校生や大学院生の興味関心やカルチャーにも触れ、どのようにすればよりよいプレゼンができるかを自分なりに学べ、振り返ってみるととても有意義な3週間であったと感じました。

もともと、自分は外国語が好きで、第二外国語の中国語のクラスでは「中国語が得意な人」のようなラベル付きで、語学を勉強するときに間違いを犯すことをとても怖がっていました。しかし、いざレベルの高い環境に身を置いて、自分が「得意な人」という地位を脱することで、最初は怖かった「間違い」がだんだんと怖くなくなりました。「どう言うかわからないけどとりあえず言ってしまえ」と。しかし、先生方はプロです。僕の間違いを一言一句記録して後で大量のフィードバックをくれます。しかし、それこそが目指すべき「言語学習者のあるべき姿」であると思いました。このサマースクールを通して自分は「中国語が得意な人」から「中国語を間違えてしまう人」になりました。でも、それは退化ではなく立派な進化だと思います。本当の意味で、このことを気づかせてくれたサマースクールの開催に尽力してくださったすべての人々に感謝するとともに、後輩たちにも自信をもってお勧めしたいと思います。

鸭血粉丝汤
meeting_0808
鸡鸣汤包
Jī míng tāng bāo
柴火馄饨
Cháihuǒ húntún

『充実の３週間。それでも語学の道に飛躍なし。』

小松咲輝

まず、コロナ禍の中、この南京研修の継続開催に尽力してくださった東大、南大両大学の先生、関係者の皆様に感謝を述べさせて下さい。また、現地に行けないというどうにもならないアンラッキーに見舞われながらも、オンライン南京研修に挑戦し、後輩に繋いでくださった先輩方の存在も、この研修に参加するにあたり、励みになりました。ありがとうございました。

さて、3週間の南京研修が終わりました。3週間を経て一番に頭に浮かんでくる感想は、自分よくやった！という充足感。そして、それでも語学の道に飛躍はない、という現実でした。

今年もオンラインで開催された南京研修。オンラインという環境は、24 時間の生活における研修の位置づけの自由度が高く、参加者の中には、語学以外の課外活動にも精力的に参加しながら南京研修に臨む猛者もいました。私はというと、部活やバイトを 3 週間断ち、東京の地ではありましたが、自分なりの「中国漬け」環境づくりを試みていました。

起床して授業の準備をし、午前中は南京大学の老师による 1 時間×4 コマの授業。語学の授業は少人数なだけあって、逃げ場がありません。先生は適度に厳しく圧力をかけてくださり、同じ 2 班の学生たちの刺激で、より積極的になれました。午後は、駒場KIBERの教室に東大の学生と集まり、南京大学・田家炳高中の学生との交流会や、自主勉強会といった活動です。1 班の学生たちの

中国語レベルの高さは、交流会等で頼りになると同時に、同級生ながら、自分もそんな風に幅広く表現が操作したいという憧れを見せてくれました。夜は、終わればよし、を目標にはせず、必要以上にあれこれ考えながら、宿題やプレゼンの準備に励みます。実は私はこれまでの学生生活でパワーポイントを使用したことがなかったのですが、3 週間何度も行ったプレゼン準備によって、熟練PPT職人になりました。東大の学生以外でも、自分の中国語学習歴よりも短い期間で、豊かで自然な日本語の表現力を身につけている田家炳高中の高校生（しかも動画編集も上手い）、自由な時間に見に行った香港のドキュメンタリー映画、漢詩の中国語朗読会、多種多様な「中国」刺激も、この 3 週間を豊かにしてくれました。

さて、このように過ごした充実の 3 週間でしたが、この研修は同時に、いい意味で、「語学力に飛躍はない」ということを教えてくれました。口が中国語に慣れたり、初めての表現に出会ったり、生の中国語で南京の学生たちと交流したり。もちろん、これは中国語学習において重大な経験でした。しかし、3 週間前の自分の中国語力と、南京研修を終えた今の自分の中国語運用能力。そこには、差こそあれ、ここから先目指してゆくべき水準から見れば、微々たる差なのだろうと感じます。

『南京サマースクール感想』

林陶然

私が南京サマースクールに参加したきっかけは友人からの紹介でした。オンラインではあるものの現地の先生に集中的に中国語を教えてもらえ、さらに現地の学生とも交流して仲良くなれると聞いて、学生時代でなければ二度とできないような経験だと思い、参加を決めました。

いざサマースクールが始まってみると、聞いていた通りにほとんど中国語漬けの生活が始まり、オンライン開催という形ではありながらもかなり濃い密度で中国語能力を鍛えることができました。特に、一班のクラスメートは皆優秀で向上心にも溢れており、その姿勢には刺激されるところが大きかったです。

また、交流では現地の日本語を勉強している高校生との交流が最も印象に残っています。自分達が中国語を話す人たちと意思疎通をしたいという動機で中国語を学んでいるのと同じように、中国語を話す人たちの中にも自分達日本語話者と話すために日本語を勉強している人たちがたくさんいるということを知り、今後の語学学習への強いモチベーションにつながりました。

全体的に素晴らしい経験となった南京サマースクールですが、反省もあります。オンラインだから大丈夫だろうということでサマースクールの時期に他にもやることを詰め込んでしまい、特に授業やその準備について、最低限のところにゴールを設定してしまい、主体的に学んでいく姿勢で毎日の授業に臨めているわけではなかった点です。優秀なクラスメートに引っ張られる形で 2 週間

参加したことには十分な意義があったと思うのですが、一方、参加したことで得られる学習効果を十二分に発揮することはできなかったと反省しています。

これからは後期課程に進学し、語学を学校で勉強するということはなくなっていくかもしれませんが、今回得た気づきと反省をこれからの中国語学習に活かし、将来的には HSK6 級の取得を具体的な目標として学習を継続していきたいと思います。

III. 記録編

南京暑期学校反省会

2022 年 9 月 1 日 10 時-12 時

@KIBER314,zoom ハイブリッド開催

（司会：林陶然、小松咲輝）

1.伊藤先生より

2.各自の良かった点、反省点

良かった点

反省点

3.先生方より

李先生から

白先生から

伊藤先生から

4. これからの中国語学習に向けた抱負

1.伊藤先生より

まず、今年オンラインになったことに関して説明させていただきたいと思います。今年でこの南京研修は10年目です。毎年、それぞれの年の困難を超えて10年間開催してきました。直近の2年間の研修はオンラインで開催し、オンラインなりの成果は上がったものの、2022年1月時点ではやはり南京サマースクールは渡航するべきだと考えていました。李先生もその考えで、私も賛同していました。加えて、2022年1月時点ではまだゼロコロナ政策が緩和される可能性がありました。4月頃に考えられた懸念点として、航空券のキャンセル料、宿キャンセル料、ビザの問題があり、5月になるまでには決断せねばならない状況下にあって、その時点で中国政府は依然ゼロコロナ政策をとり続けていたため、オンラインでの開催を決定しました。3週間もの中国語の特訓を、オンラインでやり通したあなたたちには頭が下がります。今日は振り返りの回です。よかったこと悪かったことなどを聞かせてもらえれば大変ありがたいです。

2.各自の良かった点、反省点

良かった点

（丸山）（林）この研修で最も良かったと感じたのは、中国人の先生や、周囲の中国語が堪能な生徒に刺激されたことです。

（星野）3週間、1班の班長として参加しました。今年も南京研修はオンラインでの開催でしたが、オンラインだからこそ、南京研修の期間中も他の課外活

動と並行しながら、柔軟に打ち込めたのはメリットでした。自分なりに努力をして、得るものがありました。

（小松）研修中の 3 週間は中国語に集中すると決めていて、他の部活動などを制限していたため、授業に臨む際のコンディションを整えられました。また、午後の時間を有効活用して自主的な勉強会を行うなど、オンラインだけど、自分なりに工夫して自分なりに中国語漬けの環境を作り出せたのは良かったです。クラスがレベル別に分かれていたので、全くついていけないわけではないちょうど良いレベルで、同時に周りの学生に刺激を受けることができました。少人数だからこそ、授業を進めるために自分の発言をたくさんしなければならない環境がいい圧力になったと思います。

（藤丸）発表準備の宿題が与えられ、次の授業で発表するという授業形態が自分に合っていて、よかったです。研修開始時点での自分の中国語の水準はあまり高くはありませんでしたが、事前に準備して臨むことができたため、授業を経るごとにスライド内の文字を減らすなどレベルアップが図れました。自信もあまりありませんでしたが、3 週間やり遂げたことで成長を実感し、中国語運用の面で自信がつきました。なによりもよかったのは新しい友人です。TLP 生ではない自分の周りには中国語の学習に対して意識の高い人たちが少なかったのですが、南京サマースクールに参加したことで、びっくりするほど意識の高い学生と友達になれたのは収穫でした。

（梅河）一番よかったのは、みなさんと出逢えたことです！私は第二外国語

が中国語ではないため、周囲に共に中国語を勉強する人がいませんでした。みなさんと友達になれてとても嬉しいです。

（長澤）2 年生に進級してから、中国語の授業のコマ数や、自分から中国語を話す機会が減りました。南京サマースクールでよかったのは、自分で受け答えをしてコミュニケーションをとらねばならなかったことです。授業内で新たに学ぶ語彙や文法は簡単なものが多かった一方で、実際に運用するための語彙レベルとしては、ちょうどよく感じました。

（内田）ひたすら中国語を浴びることができたことで、語彙力や流暢がかなり向上したと思います。また、クラスメートが優秀で、自分の至らなさを自覚して中国語学習のモチベーションになる刺激的な環境でした。クラス分けのレベル感は、正直合っていたかわかりません。初回の授業では 9 割くらい先生の言っていることがわからず、クラスメートは初めからとても流暢に中国語を話せていました。しかし、3 週間の研修を経て、最終的には 6 割くらい聞き取れるようになったので結果オーライでした。さらに、課題に出された文章が面白く、イベントや先生の話を通じ、中国文化などが学べたのもよかったです。

（杉本）午後の交流会で、生の中国語や中国文化に触れられてよかったです。最後の交流会では、相手からの中国語での質問を聞き取れるようになっていて感動しました。

（川東）少人数だったので発言の機会が多かったのがよかったです。リスニングとスピーキングの練習になりました。クラス分けのレベル感はちょうどよ

かったです。長期休みに入り、このサマースクールがなかったら私は中国語の勉強をやめていたかもしれません。研修によって、勉強の動機を得ることができました。他のプログラムにも参加していたため、オンラインなのもよかったです。渡航が必要だったら、中国語力への自信のなさゆえに参加していなかっただろうと思います。

（松本）自分は元から中国語学習に力を入れてきたので、3 週間での飛躍的向上はありませんでした。しかし、3 週間継続的に学習ができたのはよかったです。勉強のモチベーションにもなりました。また、文法の先生が単語を説明するときに中国語で説明してくれたのが特によかったです。未知の単語が多く、これまで中国語で単語の説明を受けるという機会はあまりなかったため、刺激的でした。

（小井沼）最もよかったのは、中国語シャワー🚿を浴びる環境に身を置けたことです。会話力を伸ばしたいと考えて参加したので、発表や交流など、話す機会が多かったことがよかったです。また、中国語で中国語を学ぶことのよさも強く感じました。わからない単語があったときに、日本語の対応語を覚えるよりも、中国語で説明されたときの方が理解しやすく、コツを掴んだと思います。クラス分けのレベルはちょうどよかったです。

反省点

（丸山）もっと授業中に発言すればよかった、というのが反省点にあります。

（丸山）（林）オンラインだったので授業のモチベーションを保つのが大変でした。

（星野）自分も、授業中の発言がアグレッシブにはできなかったことを反省しています。他の課外活動にも顔を出していたことで、サマースクールの宿題が滞ることもありました。

（小松）私が反省しているのは、研修前の学習不足です。事前に準備をして中国語の水準や語彙力を高める努力をしていれば得られたはずの成果を無駄にしてしまい、自分でレベルを下げてしまった感覚があります。

（藤丸）事前の学習でいうと、特にリスニング力をつけるのが難しかったです。その方法はいまだに不明ですが、もっと上を目指せたはずです。

（梅河）自分はリスニング力を上げるために、1年生の頃はNHKの中国語のラジオを利用していました。日本のニュースを中国語で話してくれるので、おすすめです。自分は、オンライン授業に集中できなかったことが反省点です。宿題ができなかったり、提出がぎりぎりになったり、指名されない限り積極的な発言があまりできなかったこともあります。

（林）確かに、1 班では授業中に 3 秒くらいの謎の沈黙が生まれることがありましたね(笑)。

（長澤）2班でも同様に変な沈黙の時間があったりしました(笑)。

（内田）私もみなさん同様に、授業中の積極的な発言が足りなかったことが

反省です。並行してやっている課外活動が忙しくなって課題が滞ったり、中途半端になってしまったりすることも挙げられます。

（杉本）会話の授業は宿題がほぼ毎日のプレゼン準備でしたが、原稿などのピンイン調べなどが追いつかず準備不足が目立ったことです。

（川東）私は他プログラムに参加するため、はじめの 1 週間のみの参加でした。すべて参加できればさらに効果があったはずです。また、生词は全て覚えるつもりでしたが、宿題で手いっぱいでそれは叶いませんでした。

（松本）自分の反省は、2 週目の中弛みです。この期間中に宿題が遅れたりしたことがありました。

また、運営面での反省点として umeet を利用した交流会での音声トラブルがあります。高校生との交流会の際、大人数がいる教室で一つのカメラとマイクを使用する場面で雑音が大きく入り聞き取りにくかったりしました。こちらがプレゼンした交流会では、事前準備が足りなかったことが反省点です。時間も含め、どういった風に交流会が進んでいくのか、事前に具体的イメージを持っておくべきでした。

クラス分けについては、1 班 2 班の間で東大生同士の交流がほぼなく、分断されてしまっていた点が残念でした。

（林）クラス分けと分断は、オンラインだからこその課題ですね。オンラインでもいかに交流の機会を確保できるか、は来年以降も活かしたい視点です。

（小井沼）積極的に発言していませんでした。また、新しい単語を覚えようという意識が不足し、単語を覚えて会話に活かそうと考えていましたが、良くも悪くも自分が運用できる語彙の範囲内で話すことが多かったです。

（杉本）先生の中国語について。文法の先生は比較的ゆっくり喋ってくれて半分くらいわかりましたが、会話の先生は最初何を言っているかわからず、最後の方になってもいまいち理解できませんでした。そんな時は優秀なクラスメートが DM 等で教えてくれて助けられました。

（川東）交流会の方が生の中国語だからこそ、授業より聞き取りにくかったです。交流会では、質問に答えるしかできなかったので、伝わらないかもしれないということは承知の上で会話を広げる努力をすればよかったと反省しています。クラス分けは、とても丁度よかったです。普段の東大の授業より受けやすかったです。

3.先生方より

（李先生）良かった点としては、オンライン開催になって以降、学習意欲がみんな高いですね。少人数になった分平均水準が上がりました。また、現地に行くなら挑戦してなかったけどオンラインだから挑戦できたり、他のことと並行して参加できたりした点は良かったです。南京に行っていた時には、なんとなく TLP だから行っているという人が多く、意欲が比較的低くて宿題が多すぎるといった感想が多く出ました。

さらによくなる点として、東大生間の交流がもっと進んでほしいです。各々予定もあり仕方がない部分はありますが、教員側がもう少し考えてもいいかもしれません。

（林）東大生間の交流のためにも、南京大学や高校生との交流会の準備時間をもっと確保すべきだったかもしれません。結構バタバタしていましたから。

（白先生）実際現地に行ったときに、事前準備の大切さは増します。宿題が多かったという声が多くあがりましたが、それは先生に直接言えることでしょうか？

（李先生）現地にいった場合でも、宿題は多いです。それは妥当で必要なこと。中国語のシャワーで大量のインプットがある分、大量にアウトプットする必要があります。東大生の特徴として、完璧を目指す点が挙げられますが、アウトプットして使う時は、どこかで諦めないといけません。事前準備を十分にできなかった、という反省も多くありましたが、諦めていかないとどんどん自分から使う、ということができません。

（伊藤先生）聞き取れなかったのは口音（なまり）が原因ですか？

（星野）1 班の文法の先生は、話すスピード、語彙レベルともに高い場合、聞き取りにくい場面がありましたが、次回授業からは緩めてくださいました。口音が原因で理解できないということはありませんでした。

（小松）2 班の先生方も、口音等の問題はなかったと思います。

（伊藤先生）東大生同士の交流については、絶対に仲良くなってもらいたいという思いはあります。コロナ禍の中でもなるべく東大の中で事前に対面の勉強会等を開催しようとしましたよね。この反省会の対面での開催も含め、一応セッティングは考えました。しかし、やはり実際に本当に交流したと思えるには、一緒にご飯を食べて雑談したという経験が必要なのでは、と思ってしまいます。それはあまりできなかったのではないかと思うのですけど？

（星野）学生主体となる交流の機会もあり、それをアレンジしてくれた学生もいました。ネックになったのは、コロナというよりも予定が合わなかったことではないでしょうか。オンライン化の副作用とも言えます。他のこともできるというマインドになった結果、サマースクール以外の課外活動で忙しい学生がたくさん出てきてしまったのだと思います。オンライン開催には、他のこともできるというメリットもありますが、交流の深まりを実現することは難しいと感じます。

（伊藤先生）中国語の学習に関してもひとことを申しますと、ああ自分は中国語ができるようになった！と実感するようなタイミングというのはなかなか来ないんですね。自分の期待通り一定の深さまで中国語で交流ができたという手ごたえが得られるようになるのはだいぶあとになることが多いと思います。そこに達するためには、特に話す能力を鍛えないといけないんですね。（もちろん聞く能力がその基礎になるのですが）たぶん例外なく、これまでの経歴の中で皆さんは優等生だったと思います。つまり、減点方式の評価であまり減点

されるようなことがなかった。それは、間違えないよう、間違えないよう、気をつけて、ミスを無くす努力を続けてきて、そういう努力において皆さんは、ミスが少なく非常に優秀だったのだと思います。しかし、その努力の過程で、皆さんは間違えることを必要以上に恐れるようになっているように思います。また、そう意識することで成績も良くなるでしょう。皆さんにとってこれは一種の呪いになっているわけですが、この呪いを打破するには、積極的に恥をかくことが必要なんです！間違いをいっぱい犯すことが絶対に必要で、南京大学の先生の授業で、頻繁にプレゼンの宿題が出たそうですが、プレゼンは、作文して、実際に口を動かして発話する非常によい練習になったと思います。練習なのだから、恥をかき捨てるようなつもりで、どんどん練習すべきです。練習でもやはり相手が必要ですね。相手は、南京大生でも、東大の留学生でも良いです。間違えても全然問題ないですし、1 対 1 で話す場面では、一言だけでは相手に理解されなくても、また相手の言葉が理解できなくても、そこから「えっ、何て言ったの？」とか「いったいそれはどういうこと？」といった疑問・質問が生まれ、そこから対話が始まるわけね。だから、とにかく、間違いをおそれずに発話すること。その中で会話力がついてくるんですよ。TLP では、内容の薄っぺらな会話ができるだけではなくて、深い教養に基づいた会話力が求められてるけど、深い教養は、日頃の様々な授業や読書、議論の中で養っているわけじゃない？それを英語や中国語で自在に表現するというのが理想なわけです。発表の準備や作文、資料作成を通じてそのための表現力が鍛えられたと思います。毎日毎日キャンパスライフの中で深い教養を育成しているわけです

から、あとはとにかくアウトプットすることです。3 週間の研修で、アウトプットする敷居は少し下がったはずですが、さらに下げてください。そしてぜひ今後も中国語学習を続けて下さい。そのベースの一部はこのサマースクールで鍛えられたはずなんですね。その点では、根拠のない自信でも良いから、自信を持ってください。

4. これからの中国語学習に向けた抱負

（小松）南京研修の中で、進振りを後期教養の地域文化研究に決心しました。これからも、中国と中国語を興味の中心に置き続けて、全方向的な中国語を伸ばしたいです。たくさん恥かいて、たくさん鍛錬します。

（星野）大学に入ったときからトリリンガルになるのが目標でした。英語に加えて、さらに中国語も、ネイティブの人と話して問題ないレベルにしたいと思っています。また、中国語メディアを通じても、問題なく情報を摂取できるようになりたいです。将来、自分はビジネスの世界に行こうと考えています。目下の学習面での目標は、HSK 6 級を在学中にとることと、さらに中国語を使って何かを学べるようになることです。世界に羽ばたきます。

（梅河）来年中国の大学に交換留学で行きたいと考えています。第一志望は北京大学です。留学中の 1 年間は、さまざまな中国の方と交流し、中国語力と各地の文化への理解を深めたいです。各地に旅行もしたいですね。

（内田）後期課程でも、中国語との付き合いが続きます。来学期も中国語の

授業もとるつもりです。HSK の受験も目標の一つですし、先生方から教わったラジオ、番組、本なども、今回の研修で楽しめるレベルまで持っていけたと思います。今後も学習を続けていきたいです。

（藤丸）後期課程で自分は薬学部へいくことが決まりました。漢方薬とかにも興味はありますが、まだ、今後中国語にどう関わっていくかははっきりしません。来年から留学に行きたいとも思っていますが、場所も未定です。しかし、来セメスターでも中国語の授業をとるなど、勉強を続けたいと思っています。

（長澤）私はこれまでの海外生活の中で、中国の友達も多く、同じアジア人として親近感を感じてきました。後期課程では地域文化研究分科です。今はまだ中国のどういう部分に興味を持っているのかはっきりしていないのですが、2 年間で中国への興味をさらに深めていきたいです。その中で、言葉はコミュニケーションに不可欠な道具。地域文化研究分科は語学の授業は必須で、留学への興味がある人も多いところです。刺激を受けながら学習を続けたいです。

（杉本）進振りは理学部地球惑星物理学科に内定しました。後期課程では中国語勉強の機会や余裕があるかわかりませんが、少なくとも駒場にいる間は中国語の授業をとりたいです。そして、ここまで中国語をやってきたんだぞ、という証として HSK を受験したいと思っています。

（川東）私は、進路としては中国語をメインに使うわけではないと思いますが、大学のプログラムに参加するなど、これからも中国語は使い続けたいです。ネイティブと日常会話を楽しめたらいいなと思っています。

（松本）日英中使える人間になりたいです。工学部に内定し今後忙しくなっていくはずなので、中国語の授業をとることは難しくなる見通しです。しかし、自分は入学以降中国人コミュニティなどに入ってきて、中国語を使う環境は作れているので、交流面では中国語を活かせます。また、2 年夏学期に使用した TLP の教材や南京研修の教材を活用した勉強会も開き、他人を巻き込んだ勉強会を開きたいです。今後も学習を継続します。

（小井沼）元々中国に興味がありました。工学部に進むことになりましたが、A セメでは広東語の授業に参加しようと思っています。HSK なども、申し込んでしまえば勉強せざるを得なくなるので、利用したいです。

（林）駒場で中国語やりながら、という進路も悩みましたが、進振りは法学部に決めました。今後は語彙力を上げることを目標に、ラジオや本などの中国語媒体をつかって勉強していきたいです。ゆくゆくはトライリンガルになりたいと思っています。南京研修での経験は生きてくるはずです。

（了）

（記録：小松咲輝、林陶然）

あとがき

オンライン 3 年目

伊藤徳也

今年度の南京サマースクールもオンラインの実施となった。3 年連続になる。昨年度から、今年度の駒場キャンパスの授業は、原則対面授業で実施すると決まっていた。筆頭引率教員担当の李彦銘先生からの年賀状にも、今年こそ南京でサマースクールを実施したい、というような言葉があって、私もそのつもりでいた。当時の日本の新型コロナ感染状況も中国の出入国管理も、全く楽観視できない状態だったが、新年度までに好転する可能性はゼロではないような気がしていた。

新年度に入って、南京に渡航してサマースクールを実施するために必要な多くの条件を様々に想定したうえで、李先生を通じて南京大学の阮艶先生に南京大学側の感触をうかがった。すると、対面で授業を行うなど、全く思いも寄らない厳しい状況だ、というレスポンスだった。実際、中国便のフライト状況もさほど改善していなかったし、中国も厳格なゼロコロナ政策を堅持し、出入国管理も恐ろしく厳しいままだった。

参加者には 9 月の反省会でも説明したが、20 名の人間が渡航して 3 週間を南京で過ごすためには、コロナ禍がなかったとしても、様々な準備を 4 月頃から始める必要がある。そして、宿の予約のキャンセル料やフライト予約のキャンセル料などのことを考えると、渡航を前提に準備しながら状況を見て、渡航がだめならばオンラインに切り替える、という方策を取ることは事実上不可能だった。こうして 4 月中に、今年度もオンラインで実施する方針を固めることになった。

渡航できることを期待していた学生がそれを聞いてがっかりしたと聞き、心が傷んだ。そりゃそうだろう、新年度にはいって（感染拡大の警戒はしつつも）原則対面で、授業を含むキャンパスライフが生の現実空間で展開できるようになっていたのだから。案の定、参加者を募ったら、昨年度以上の少なさで、南京大学側の内規にも抵触しかねない状況だった。その後の TLP の先生方の粘り強い広報、勧誘によって人数を増やしなんとか昨年度並みにすることができたのだが、とは言え、元来 20 名規模の参加者を想定したプログラムである。寂しいことに変わりはない。

ただ、参加者が少ないことは、昨年度もそうであったように、悪いことばかりではない。李先生等のリードで事前学習会を開くと積極的に参加する学生がちらほらといて、今年度の参加者は総じて学習意欲の高い粒ぞろいの集団だったというのが私の印象である。昨年度の参加者のように勢いのある弾けた気風は伝わってこないものの、

落ち着いてずんずん着実に前進していく静かな迫力のようなものが伝わってくる感じだった。今年度は、いつにも増して、今後の進路についての詳しい話が聞けたからだろうか、今年の参加者の中には何人も、今後もずっと中国語力を磨き続けていく人が出てきそうで、非常に頼もしく思った。彼らは、今回南京に渡航することはできなかったが、おそらく、今後必ず何らかの方途で中国に渡って、貴重な中国体験をし、中国との関係をいっそう深めていくに違いない。今年度も、参加者の少なさというネガティブな条件をポジティブなものにできたという一面は一応あったように思う。

今年秋にひらかれた中国でもっとも大切な会合は予想通り（あるいは予想以上に）いまの体制をさらにつよくしたかに見えたが、老齢者の身に寒さがこたえる頃になって、にわかには信じられないようなデモが発生するなどし、ゼロコロナ管理が突如ゆるみはじめたのには驚いた。現在の状況に対してチャイナ・ウオッチャーとして思うところは多々あるが、ここでは、あくまでも東京大学の南京サマースクール実施責任者として感じ考えたことだけを、この報告書のあとがきの最後に記しておく。

来年度のサマースクールはどうなる？　ということである。半分はこちらの態度次第だがあと半分は社会状況次第である。南京サマースクールは東京大学の正規の国際研修科目であり、国際研修委員会は、コロナ前同様の現地渡航による研修を推進推奨している。コロナ以前でも 20 名規模の現地渡航研修には様々な大小の困難があったが、私達を含め国際研修担当教員は事務方の助けを借りて毎回そうした多くの困難をなんとか乗り越えて実施してきた。先日国際研修委員会から提出を求められた企画書も現地渡航予定として策定し提出しそして承認された。これが現時点での「こちらの態度」である。

しかし、来年本当に実施するのは、3 年前までのように実施するのとはわけが違う。この 3 年間で社会に変化があったのは中国だけではないが、中国ほど激変した地域はあまり他にないのではないか？　たとえコロナ禍が終息し中国社会が平穏を取り戻したとしても、その平穏の中身は 3 年前までの平穏の中身とは恐ろしく異なっているはずである。ましてや感染症の脅威は現存の新型コロナだけではない。日本に続いて高齢化が進む中国の医療体制のことを考えても、また、スマホ無しで生活できなくなっている中国の経済システムのことを考えても、あるいは外国人に対する統治・管理者のマインドを考えても、南京で日本人の集団が活動する際の環境が 3 年前より容易になっているとは考えにくい。来年度は今年以上に難しい判断を迫られることになるかもしれない。

2022 年 12 月 12 日

執筆者一覧

１班

内田　まりな（ウチダ　マリナ）教養学部・文科三類２年

梅河　智博（ウメガワ　チハク）教養学部・文科三類２年

＊星野　匠海（ホシノ　タクミ）教養学部・文科二類２年

松本　翔龍（マツモト　ショウリュウ）教養学部・理科二類２年

丸山　晴樹（マルヤマ　ハルキ）教養学部・文科二類２年

林　陶然（ハヤシ　ヨシナリ）教養学部・文科一類２年

２班

川東　凜子（カワヒガシ　リンコ）教養学部・理科一類２年

小井沼　孔心（コイヌマ　ヨシムネ）教養学部・文科三類２年

＊小松　咲輝（コマツ　サキ）教養学部・文科三類２年

杉本　理空（スギモト　リク）教養学部・理科一類２年

長澤　璃奈（ナガサワ　リナ）教養学部・文科二類２年

藤丸　朋也（フジマル　トモヤ）教養学部・理科二類２年

＊は班長

2022 年度 南京中国語サマースクール（国際研修）

協力

南京大学海外教育学院

担当教員

李 彦銘 大学総合教育研究センター・特任講師

白 春花 大学総合教育研究センター・特任講師

責任教員

伊藤 徳也 大学院総合文化研究科・教養学部 教授

主催

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部付属グローバルコミュニケーション研究センター・トライリンガルプログラム（TLP）中国語

東京大学・教養教育高度化機構国際連携部門リベラルアーツアーツ・プログラム(LAP)

本研修は、株式会社ゼンショーホールディングスの寄付金による支援をいただいて実施されました。

2022 年度 南京中国語サマースクール報告書

2023 年 1 月初版印刷

編集 李 彦銘

発行 東京大学リベラルアーツ・プログラム(LAP)

〒 153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 TEL 03-5465-7671

URL: http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/ja/　E-mail:　admin@ lap.c.u-tokyo.ac.jp

写真提供の協力: 南京大学学生・ 鄭旭文　常夢佳